平成 26 年 10 月 15 日

株式会社 文化事業部

ー企業の枠を超えた文化事業ー

代表取締役
セーラ・マリ・カミングス

桝一市村酒造場の再構築

「わざわざ小布施を訪れて頂く。」

店舗を大改装

・「てっぱ」をつくる

・自動販売機を廃止、店舗での販売にこだわる

ブランディング

・桝一を□一（スクウェア・ワン）とし、
オンリーワンのブランド戦略

おもてなしの空間づくり

・日本酒に合う〝寄り付き料理〟 を提供する 「蔵部」

・客人（まれびと）をもてなす宿「桝一客殿」

桶仕込みの復活

・60 年ぶりに桶でお酒を仕込む。
本来の日本酒を追求

働きたい場所づくり

・１年中雇用出来る体制（酒の仕込みとレストラン）

・かっこいいユニフォーム

古い蔵を利用することで大工さんが技術を発揮する機会に。
景観を損ねないよう瓦は古い物を再利用。
若者が生き生きと働く姿が見えると町が生きる。

小布施ッション［obusession］

Obuse ＋ session

Obsession＋u（あなた）

→

小布施ッション

Obusession

要因

・夜の町が淋しい

・老若男女、学生、外国人とにかくいろいろな人が交流する場所が必要

・四季を楽しむ機会が減っている

・毎月の楽しみをつくる

工夫

・英語の同時通訳

・学生無料

・毎月ゾロ目の日に開催（五節句にあたる）

・講演会後のパーティーの内容を毎月工夫

・日本酒を振る舞う

夜開催することで小布施に宿泊する観光客や
小布施ッションをきっかけに小布施に就職、
移住する若者が増えた。

小布施見にマラソン［Obuse mini marathon］

小布施を見て、楽しむ
ハーフ（ミニ）マラソン。

→

小布施見にマラソン
Obuse mini marathon

要因

- 長野マラソンが小布施を通過しなくなる
- 町全体を盛り上げたい
- スポーツを通じた交流
- 小布施の地名を残す
- 海の無い小布施に波をつくる

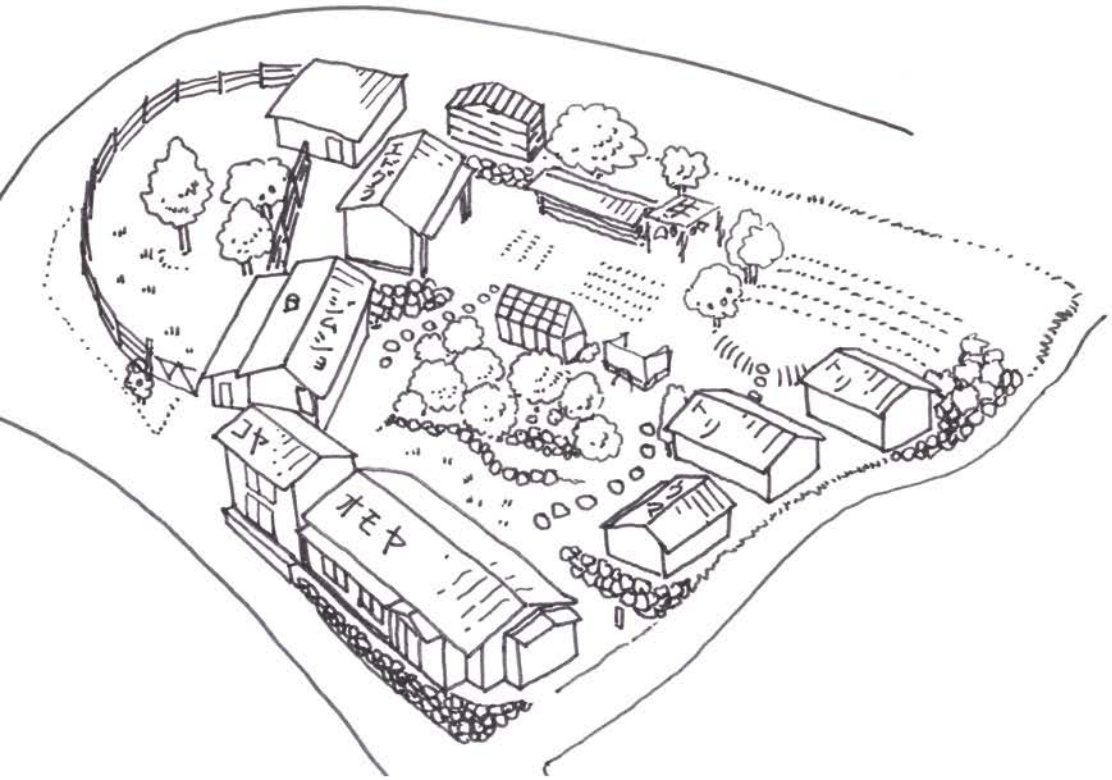
工夫

- 名前に「小布施」を入れる
- 小布施駅スタート
- 地元のボランティアによる運営
- コースの至る所におもてなし（給水所）
- 栗畑や土手、お寺を通るコース
- 仮装 OK のパレードのようなマラソン
- 誰でも完走できる時間設定

８０００人のランナーと１７００人の地元ボランティア
宿泊客の増加とマラソン後町を散策する観光客の増加
地域の絆が強くなる（防災訓練にもなる）
道が常設される

かのやまプロジェクト　現在企画中の新プロジェクト

こころのふるさと「かのやま」



日本中の農村で後継者不足による荒廃地の増加や田んぼを分譲住宅に変える動きがあり、景観が急激に変化している。

しかし、農業で生計を立てることは非常に難しいことである。

そこで古民家を改修し、文化の拠点を造ることで先輩と若者、外国人などいろいろな人を巻き込んだ地域のブランディングとライフスタイルの提案を行う。

長野市内にある保科に拠点を移し自ら生活しながらプロジェクトを進行。

築１１０年の古民家を改装中で、ここを文化の拠点として活用。

母屋から庭を見ると裏山を借景にしており自然を利用した贅沢な景色である。

段々畑では手のかからない野菜を育てている。
荒廃地を畑にすることで地域のプライドと治安を守る。

現在ファーストペンギンの
若者が働いている。

NPO 法人桶仕込み保存会

「桶仕込みは絶滅寸前」

桶で仕込みを行っている蔵元はごくわずか。

酒・味噌・醤油・みりん・酢などを仕込むのに使用する大桶を製造するのはたった１社のみ。

この現状を受けて酒屋だけではなく味噌、醤油、酢、桶師、林業などの桶仕込みに関わる多様な業界を巻き込み桶の技術次の世代に繋げる活動を行っている。